

旭山動物園で行ってきた博学連携への 10 年

旭山市旭山動物園

奥山 英登

1. はじめに

学校教育と博物館の連携、いわゆる「博学連携」が双方ともに求められている。筆者は 2005 年から旭山動物園に配属され、今日に到るまでの 10 年間、これに向けて様々な取り組みを行ってきた。

2. 旭山動物園教育研究会 (GAZE) の組織運営

旭川市や近郊の教員らとともに、動物園での教育研究を継続的に行う組織「旭山動物園教育研究会 (GAZE)」を 2005 年に設立した。研究会では、これまでワークショップを 21 回開催し、約 1000 名の教員らと互いの理解を深めてきた。また、これまで学校で行ってきた教育実践事例をもとに、動物園学習の利用の手引きやモデルケース等を GAZE 会員とともに編纂し、これを「旭山動物園教育連携ガイドブック」として 2013 年 3 月に発行した (図 1 左)。これらの研究会による長年の活動により、数多くの発展的で先進的な実践事例をさらに培うことができている。

3. 遠隔授業「i-ねっとわーく授業」の開発・実装・更新

遠隔授業「i-ねっとわーく授業」を 2006 年に開発し、旭山動物園の教育活動に実装した。学校が簡単に遠隔授業を行えるよう機材一式のキャリングケースを作製し、授業は園内の飼育展示施設から配信できるようにした。2014 年には、情報通信技術の進歩に伴って、システム全体の更新を行った。学校がより実施しやすいようキャリングケースはさらに小型化し、範囲が限られていた授業配信もほぼ園内全域で行えるようにした。これまで遠くは沖縄県石垣島の中学校など、全国各地の学



図 1 (左) . 旭山動物園教育連携ガイドブック
図 2 (右) . i-ねっとわーく授業の学校での様子

校に対し、遠隔授業を通して旭山動物園の教育活動を体験してもらっている (図 2 右)。

4. 「教員のための博物館の日」の地方展開

国立科学博物館が実施していた「教員のための博物館の日」を 2011 年に旭川市内で開催し、国内でいち早く同事業を地方展開した。これまで 6 回開催してきた同事業では、旭川市内の博物館や科学館等とも連携し、シンポジウムや各館の学習資源を体験できるブース出展、ガイドツアー等を実施した。多様な教科の教員らを多数募ることができ、博物館が持つ学習資源に参加者が価値を見出していることが見て取れた。また、「教員のための博物館の日」は、その後、全国各地の博物館に波及していくが、筆者が行った同事業がその一指針になったと考える。

5. おわりに

この 10 年間で、博学連携の障壁とされる教員の博物館に対する理解不足等については、かなり払拭できたと自負している。一方で、授業時数の確保や移動手段の手配等、連携に向けた物理的な障壁も未だ残っている。今後は、これらも取り扱う博学連携へのシステム構築も行っていきたい。